

研究主題「音読の工夫を通した読む力の育成

－演劇的手法を生かした読むことの指導の工夫－」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
東村山市立東萩山小学校 主任教諭 尾沼 直也

第1 研究のねらい

音読は、児童にとって学習意欲の高まる活動であるとともに、「読むこと」の指導事項において、「自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする」（小学校学習指導要領解説国語編 平成20年8月）働きがあると示されている。

「読むこと」の指導事項において、音読の指導の効果が期待されているにも関わらず、「平成27年度全国学力・学習状況調査」における「登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することができるかどうかをみる」問題では、東京都の児童の正答率が上位県と比べ、18.1%低かった。この問題における学習指導について「平成27年度全国学力・学習状況調査解説資料（国立教育政策研究所）」では、「物語の魅力などが伝わるように音読するためには、場面の移り変わりや登場人物の行動の気持ちの変化を捉えることが重要である。その際、自分のもっている知識や経験などと結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができる」と述べ、音読の指導における改善・充実を図る際のポイントが示されている。また、上記の問題の正答率の低さの背景には、従来の場面ごとにしっかりと読み取り、その後に音読するなどの指導過程において、「読み取れていな」「読み取ったことが音読の工夫に生かされていない」という課題があり（参考 言語活動の充実に関する指導事例集 文部科学省 平成23年）、音読の指導が、場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちの変化を捉えることなどの「文学的な文章の解釈」に十分に結び付いていないのではないかと推測することができる。

このような課題を改善するため、研究主題を「音読の工夫を通した読む力の育成」とした。また、音読を工夫することと読む力の育成を関連付ける手法を研究し、「演劇的手法」を取り入れることが有効ではないかと考えた。「演劇的手法」とは、演劇を活用した学習手法のことで、「動作化」「劇化」などが含まれる。この「演劇的手法」は、児童がその活動をするために叙述を繰り返し読んだり、登場人物の心情により共感したりする必要がある。そのため、読む力の育成に有効ではないかと考えた。そこで主題に迫るための副主題を「演劇的手法を生かした読むことの指導の工夫」と設定し、音読の授業を通して読む力を育成する効果的な指導法の開発を行うこととした。

第2 研究仮説

演劇的手法を生かした音読工夫シートを作成し、そのシートを基に読みを深める学習活動の工夫をすれば、文章を理解する力がより高まるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 「演劇的手法」や「音読」、「文学的な文章の解釈」についての文献などを基に、「演劇的手法」を生かした指導法を分析した。その結果、「音読」や「文学的な文章の解釈」において、「演劇的手法」が用いられる例はあるが、ねらいと手法が十分に体系化されていないため、指導のねらいの達成に向け、どのような「演劇的手法」を使用すればよいの

か分かりにくい面があった。そこで、「演劇的手法」を活用しやすくするために、関連する文献や先行研究を基に、指導のねらいに沿って「演劇的手法一覧」(表1)を作成した。

(2) 先行研究を調べ、「文学的な文

章の解釈」における音読の指導の方法を分析した。その結果、一単位時間の中で、音読をする活動では教科書を使い、「文学的な文章の解釈」をする活動ではノートやワークシートで行うといったように「文学的な文章の解釈」で想像を広げた内容と音読する文が一緒になっておらず、児童にとって「文学的な文章の解釈」を「音読」に生かしづらい事例が多いことが分かった。

2 調査研究（7月）

(1) 都内公立小学校3校の第2学年の児童に対して、「音読することは好きか」などの意識調査と、「音読の工夫について」や「読むときに気を付いていること」などの実態調査を行ったところ、269名の回答が得られた。「読むこと」の学習において、「お話に出てくる人と自分を比べながら読むことを気を付けている」という児童がおよそ7割いるものの、3割の児童は、自分と比べながら物語を読んでいないことが分かった。

(2) 都内公立小学校3校の教員に対して、「音読」の指導内容や「文学的な文章の解釈」の指導方法などの実態調査を行ったところ、54名の回答が得られた。およそ9割の教員は「音読」を一単位時間の始めや終わりに、学習範囲の確認や学習のまとめとして行っている。一方、一単位時間で何度も音読を行う指導を実施している教師は、4割弱であることが分かった。音読する回数が少ないという実態は、音読を繰り返すことで理解を深める指導の効果が、十分に活用されていないという背景があると考察した。このような指導の実態を受け、繰り返し何度も声に出して読むことで、理解を深めることができるよう、音読の工夫を通した読む力の育成に効果的な教材を選び、「音読」の活動を多く設定した一単位時間の指導案や単元計画を開発した。

3 開発研究

学習指導要領にある「C 読むこと」において、「文学的な文章」における読む力の育成をねらいとし、「演劇的手法」を活用した単元計画とその際に活用する音読工夫シートの開発を行った。

(1) 文学的な文章の解釈を深め、音読に生かすための工夫

① 演劇的手法の活用

各授業のねらいを達成するために有効な演劇的手法を活用する。例えば、場面の様子を理解しやすくするための演劇的手法（「どんな場面かな」「動いてみよう」）を活用したり、登場人物の気持ちを深く考えさせるために、登場人物の気持ちと同じ気持ちになったことを想起させる演劇的手法（「思い出そう」）を活用したりする。

② 音読工夫シートの活用

文学的な文章で解釈した登場人物の気持ちや場面の様子を考えながら、それを生かして音読できるように、音読を工夫する文と登場人物の気持ちや場面の様子を記述する欄

表1 演劇的手法一覧（一部の記述のみ）

| ねらい | 手法名 | 内容 |
|------------------------|-----------|--|
| ・登場人物の気持ちや場面の様子を想像させる。 | 動いてみよう | ・実際に動いてみて、気持ちや場面の様子を想像する。 |
| ・登場人物の気持ちを想像させる。 | 思い出そう | ・自分が体験したことのある似たような体験を思い出す。登場人物の心情を共感する。 |
| ・自分の視点で想像を膨らませる。 | もし、自分だったら | ・「もし、自分だったら」と想像を広げ、自分と登場人物の行動を比べ、行動の意味を想像する。 |

を一枚にまとめたワークシートを使用し、「文学的な文章の解釈」と音読の工夫を関連付けた。また、児童が「音読工夫シート」を活用し、段階的に「文学的な文章の解釈」を深め、音読に生かせるように一単位時間の活動を以下の四つに分けた。

- ・教科書の叙述を基にした「文学的な文章の解釈」
- ・「文学的な文章の解釈」を更に深めるために「演劇的手法」を活用
- ・本時のねらいに即した記述
- ・「文学的な文章の解釈」を生かした音読

③ 単元構成の工夫

第二次と第三次を関連させ、第三次の音読発表会につなげられるよう、第二次の毎時間、一単位時間の後半に、「文学的な文章の解釈」を生かして音読する活動を設けた。学年の指導事項に応じて、音読の工夫を通して読む力を育成するための単元を開発した(表2・表3)。

表2 単元計画例

| 低学年 単元計画 | | |
|--------------------------------------|-----|--|
| 「C 読むこと」指導事項 | | |
| ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 | | |
| ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 | | |
| 次 | 時 | 学習活動 |
| 一 | 1 | 単元のまとめとして音読劇をするという学習の見通しをもつ。 |
| 二 | 2 | 主語、述語の関係に注意しながら、場面ごとの様子を読み取る。 |
| | 3～8 | 登場人物の行動や会話などの叙述を基に演劇的手法を用いて登場人物の気持ちを読み取り、音読の工夫をする。 |
| 三 | 9 | グループごとに音読する場面を決め、音読の工夫をする。 |
| | 10 | 音読発表会を行い、感想を交流する。学習を通して、想像が広がったことを振り返る。 |

表3 単元計画例

| 高学年 単元計画 | | |
|---|-----|--|
| 「C 読むこと」指導事項 | | |
| ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読すること。 | | |
| エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 | | |
| 次 | 時 | 学習活動 |
| 一 | 1 | 単元のまとめとして音読劇をするという学習の見通しをもつ。 |
| 二 | 2 | 登場人物の相互関係や場面ごとの描写について読み取る。 |
| | 3～7 | 演劇的手法を用い、場面の様子や風景の描写、人物の心情を捉え、自分の考えをもち、音読の工夫をする。 |
| 三 | 8 | グループごとに音読する場面を決め、音読の工夫をする。 |
| | 9 | 音読発表会を行い、感想を交流する。自分の考えが広がったり深まったりしたことを振り返る。 |

4 検証授業（10月）

都内公立小学校第2学年において、教材名「お手紙（光村図書）作 アーノルド＝ローベル」で、単元名「音読の工夫をして、音読げきをつくろう（全10時間）」を実施した。

「演劇的手法」を活用した単元計画や「音読工夫シート」を活用した授業を行い、「演劇的手法」を生かした読むことの指導の工夫の有効性を検証した。

5 検証授業のまとめ

検証授業を実施した学級において、授業記録（音読工夫シートの活用）の分析や検証授業後の調査の分析を通し、「演劇的手法」を活用した手だてや「音読工夫シート」の有効性を検証した。

（1）児童の学習に対する意識の変容について

検証授業を実施した学級の児童（29名）に対して、検証授業前に行った調査研究での内容を事後調査として行った。「読むときに気を付けていること」について「お話に出てくる人と自分を比べながら読むことに気を付けている」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的な回答をした児童が6名増えた（図1）。

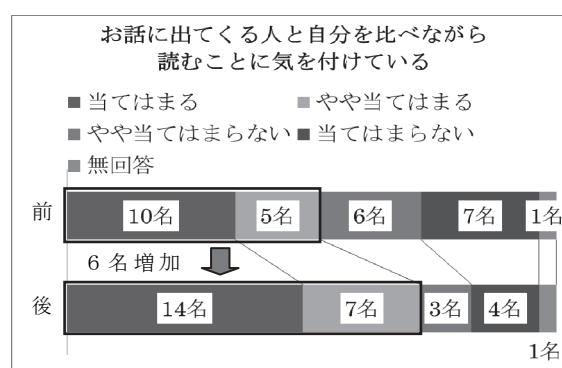


図1 事前、事後調査の比較

登場人物と自分を比べながら読むことに気を付けている児童が増えたことは、文章を読むときに自分のもっている知識や経験などと結び付けて解釈する児童が増えたと言える。

また、「音読工夫シート」を基に、「①教科書の叙述からの解釈」、「②演劇的手法を基にした活動」、「③本時のねらいに即した記述」、「④音読と音読工夫シートの活用」を工夫した結果、「お話に出てくる人の気持ちを考えて音読を工夫する」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と肯定的な回答をした児童が8名増えた（図2）。

のことから、文章の内容を自分の経験と結び付けることで、登場人物の気持ちについて想像をよりふくらませることができ、それを音読に生かそうとすることができたと言える。

（2）「文学的な文章」を解釈する力の変容について

第二次のねらいを「登場人物の会話や行動に注目し、登場人物の気持ちを想像する」とし、授業を行ったうえで、

「音読工夫シート」の吹き出しを書く活動の記述の内容を分析したところ、表4のような結果が得られた。本研究では、「C 読むこと」における目標及び内容を基に、登場人物の会話に直接書かれている内容だけではなく、登場人物の気持ちを想像することで記述できる内容を「吹き出しに記述してほしい、ねらいに即したキーワード」としてあらかじめ考えた。そのキーワードが入った記述をした児童を「深い解釈ができた児童」と定義した。検証授業を実施した学級のおよそ9割の児童が文学的な文章をより深く解釈ができ、ねらいを十分満足できる状況に達成したと言えた。また、「キーワードを複数書いた児童」がおよそ3割いた。「文学的な文章の解釈」を一つの視点だけでなく、複数の視点で登場人物の気持ちを想像することを3割の児童が達成した。

第4 研究の成果

- 「文学的な文章の解釈」に有効な「演劇的手法」を生かした「音読工夫シート」を活用することで、文章を理解する力が高まった。
- 「演劇的手法」で深まった「文学的な文章の解釈」を音読に活用する声掛けについて、「演劇的手法一覧」にしてまとめ、他の単元や教材でも音読の工夫を通して読みを深められるようにした。

第5 今後の課題

- 開発した単元の工夫や指導の手立てを、他の単元や高学年においても実践する。
- 今回の検証授業では、場面の様子を理解しやすくするための「演劇的手法」や登場人物の気持ちを深く考えさせるための「演劇的手法」を活用したが、それ以外の「演劇的手法」の効果も検証していく。

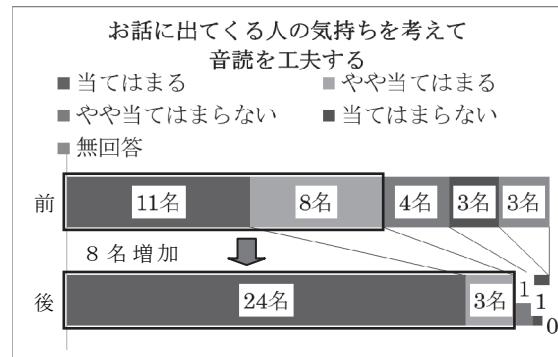


図2 事前、事後調査の比較

表4 音読工夫シート 吹き出し児童記述について

| 時 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---------------|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 活用した演劇的手法 | ど思・自 | ど思・自 | ど動 | ど自 | ど思 | ど思 |
| 深い解釈ができた児童 | 27名 | 23名 | 25名 | 24名 | 27名 | 27名 |
| キーワードを複数書いた児童 | 5名 | 9名 | 12名 | 7名 | 10名 | 9名 |

・活用した演劇的手法 「ど」 どんな場面かな 「思」 思い出そう
「自」 もし、自分だったら 「動」 動いてみよう

・今回の検証授業では、1、2、9、10 時は、演劇的手法を活用せず